
侵入するしかないんだよっ

神城 瞬夜

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

侵入するしかないんだよっ

【Nコード】

N4278D

【作者名】

神城 瞬夜

【あらすじ】

一人の男がいた。その男は暗い夜の中、ひっそりと一軒の家に忍び寄って 侵入しようとしていた。

侵入するしかないんだよっ

まったく。いやになるよ、最近の世の中は……。何せセキュリティが堅いからね。僕のような人たちにはやりにくいったらないよ。

「はあ、寒いなあ。早く終わらせたいなあ」

そんなことをつぶやきながら、僕はこっそりと一軒家に忍び寄った。

月が輝くきれいな夜。星たちも満開(?)だ。雲はあるし、都会だからあまり星はみえないけどね。

それでも、夜の綺麗さは損なわれない。いい夜だねまったく。何でそんな夜に僕はこんなことをしてるんだろうね。

さてと、周りに人は……。いないね。誰かに見られたら大変だ。

ドアが開いてればラッキー、なんて気持ちでドアノブをガチャガチャやってみたけど、やっぱり鍵がかかってる。

昔の家はドアがなかったんだなあ。鍵もかかってなかっただろ。うし。そんな時代に生まれていたら楽だったのに。ま、愚痴っても仕方がないね。

さーて、どうやって忍び込もうかなあ。

「ま、それが仕事だから仕方がないよね」

さーて、ドアがダメなら、窓でも調べてみるかな。いや、ドアをピッキングっていう方法もあるね。でも、ピッキングは跡が残るし。やっぱり、窓を調べてこよう。

窓は開いてなかった。仕方がない。やはりピッキングでいこうかな。もちろん、ピッキングのための道具は常備してある。仕事のためだからね！

周りに人がいないことを確認してから、僕はドアノブに手をかけた。さあ、実力のみせどころだ。

ピュピュピュピュピュ　　ッ！

「ごめん、失敗しました。」

「だから最近の世の中は嫌なんだ！　セキュリティが堅すぎるんだよ！　こつちの身にもなつてくれ！」

それでも警報は鳴り止まない。非常な世の中だね。マズイ。このままじゃ確実に逮捕だ。仕方がないね。逃げる - - だめだ。そんなことしたら金は手に入らない。そうしたら生きていけない。いつそ逮捕されれば生きてはいけるよね。

……こんな状態でつかまったら洒落にならないな。

「くそう、とりあえず強行突破だ！」

僕はドアをぶち破った。ゴメンネ。さてと、今の音は音量的にはそこまででかくないけど、家の中の人は起きてしまっただろう。それにきつと、警察のコンピューターにリンクしている。急がないとね。

……さて。さっきの警報でそろそろ警察は出動したかな？　これだと残りの仕事やりにくいなあ。

こんな状態でもう一度家（別の家だけだね）に忍び入るなんて頭の悪いことこの上ないけど、それでも僕は侵入しないとイケない。仕事だからね。

「ホント、嫌な仕事だよなあ」

僕はこの仕事に誇りをもってるけどね。

さてと、このあたりの家はセキュリティが特に堅いらしいね。仕方がない。窓から入るかね。穴を開けてね。ほ、僕はドアのピッキングは苦手なんだ。

まあ、それはともかく。まずいね。何がまずいって、僕が今から忍び寄る家の周りに警察が沢山いるあたりが。

でも、ここでは退けない。何故か？　繰り返すというけど、コレ

は仕事だ。そして僕はこんな大変な仕事でもそれなりに誇りをもってるし、好きだからね。

んー、どうやって警官の目をかいくぐるかなあ。どっかほかの家に火でも放つたらそっちに注意がいくかなあ。でもそれだと罪の上塗りだよな。

仕方がない。普通に突破だ。

警察官が巡回(?)で僕の目標の家から離れていったところを狙って、僕はすばやく、しかし音を立てずに近寄っていった。ドアの鍵が開いていないかなんて最初から確認しない。目標は窓だ！

「さて、まずは窓に穴をあけて……」

僕は道具を取り出し、窓に近寄った。

ピピピピピピピピピピ……ッ！

窓にまでセキュリティがついてるなんて聞いてないよ！ というか、今時ってそんな時代なの！？ とにかく早くしないと！

またしても強行突破になってしまった。僕はこの仕事に向いてないのかもしれない。でもめげない。さて、次の家だ！

「今度は二階の窓からスマートに侵入しよう」

ブロック塀に足をかけて、二階のベランダに登　うわぁ、足がすべった！

「よし、今度はもう一回ドアにチャレンジ……」

ピピピピピピピピ　ッ！

「……ドアはやっぱりだめだね。初心に戻って窓にしよう……」

~~~~~ ッ！

はあ、やっとノルマはあと一軒だ。ここらの警官はさぞかし首をひねっていることだろうね。『何でこんなに連続で近くの家にはかり、警官の警備の前で盗みに入るのか』ってね。

でも、それが僕の仕事なんだ。格好悪いつたらないけどね。警報ならしてるし。僕の同僚はうまくやってるけど、僕は下手なほうなんだ。

それでも、大切な仕事に違いない。なんせ、子供に夢を与える仕事だからね。心の中で小さくそうつぶやいてから、僕は赤に白の毛がついたコートを羽織りなおして、プレゼントの入った白い袋を持ち上げて歩き出した。

本当、最近のこの業界はきびしいよなあ。

『えー、次のニュースです。今日の深夜、赤いコートを羽織り、白い袋を持った男が不法侵入者として現行犯逮捕されました。事情聴取する警察官に、男は「僕はサンタクロースだ。仕事のために入った」と繰り返している模様です。ここ数年、聖夜にサンタクロースと名乗る悪質な不法侵入者が相次いでいる模様で、保護者の方々から「サンタクロースのイメージと子供の夢を汚しかねない」という文句の電話が相次ぎ』

本当、最近のこの業界は厳しいです。

(後書き)

どうも、バレバレ感満載のこの作品、楽しんでいただけたでしょうか。きつと無理だと思えます。次回はがんばります。次回はがんばりますので、何かアドバイスお願いします。

侵入するしかないんだよっ

侵入するしかないんだよっ

# 広告募集中

小説関連広告に最適です。  
出版社や印刷会社はもちろん、  
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4278d/>

---

侵入するしかないんだよっ

2009年3月24日10時21分発行